

虫垂炎（盲腸炎）2 題

同じような 50 歳前後の男性が、全く別個に来院した。いずれも昨夜～今朝から続く腹部全体ないし下腹部の不快感あるいは痛みを訴える。触診すると圧痛（おさえると痛みがあること）はそれほどでもないが、2 人とも指を離すときに激痛を訴える。これは Blumberg 徴候といい、腹膜刺激症状、つまり**腹膜炎**の可能性が高いことを意味する。で、まず、**虫垂炎**を考えるのが普通である。可能性でいえば、小生が当院で経験したのに原因不明の**卵巣破裂**がある。あるいは、左側ばかり痛いといって「盲腸とはちがうのか？」と何度も確かめた人がいるのだが、「盲腸のときはこっちの、このあたりが痛む」といい、そこは何もなかった。ところが数時間後になると、だんだん右のほう痛み、結局 CT スキャンで「**虫垂炎**」だった人がある。そのため、触診だけでは、あるいはその時点だけで判断するのは誤診してしまう可能性がある。だから、白血球数を調べたり、CT スキャンも駆使して診断するのである。

いずれにしても外科の診察が必要であり、治療も虫垂炎なら手術が第一選択である。

で、1 人目の患者は家が近いという希望に従って、ある公立病院、仮に A 病院としますか、ここに紹介をした。すると、横柄な態度でペーパーの医者が「うちには今空床がない。アッペ（虫垂炎のこと。Appendicitis の略）で手術をしたら入院させなければならない。だから（空きベッドがないから）どこか手術のできる病院を捜して下さい」とケンもホロロ。・・・いやまだ確定診断には至っていないし、手術の話も全くしていない。するとこの医師免許を持っているだけの**医者擬き**は、「ここは救急ですから」をくりかえす・・・**救急医療**を全く理解していないのがいっちょ前のことを言う。・・・そもそも救急医療を行なうなら少なくとも 2~3 床の空きを常備しなければならない。先に書いたように、時間の経過とともに変化が起こる可能性があるのだから。このバカにはこれ以上言っても意味がない。

奇怪な三段論法にはあきれよりも実は嗤いを抑えるのに苦労した。

(しかしまあ、こんなのを抱えていたら、病院上層部は大変やな。明らかな医師法違反の「診療拒否」である。・・・ボクにはそういう意味での上昇志向がなかったが、もし病院のえらいさんになるなら、余程に吟味して医者を探さざるを得ない。))

さて2人目の患者。この人のほうが Blumberg 徴候が強く、多少急がねばならない。今度は前のことで懲りているから、紹介先を変える。仮にB病院としましょう。すると、OK！すぐに来てもらって下さい、と快諾してくれたのである。でCTスキャンで虫垂炎ではなく、大腸憩室炎と診断された。ここも空床はないだろう。「本来なら入院が必要なのだが」本人の希望もあり、なんとか通院で治療する。しばらくは、お粥だけを食べるように、と言われたという。

みなさんは、どちらの病院を選びますか？ AかBかと問われれば当然Bの方でしょう？ ワタシも同じ意見です。

当院には、阪急箕面駅のそばに住まわれ、本当の意味での**胃の専門家**が、週に1回来て下さっている(稿を改めて書くが)。その先生の言われるには、うちのまわりはA病院に掛かる人がほとんどですよ。近いのはB病院なのにどうしてかなあ、と。小生考えるに、まず建物が新しく大きい。(これしかなかったりして・・・)あるいは、以前にB病院で不愉快な(?)思いをしたことがあるのだろうか。受診する科によっても異なるからどちらがどうと一概には決め付けることはできないのだが、今回の件に限って言えば、B病院の姿勢が正しい、と言わざるを得ない。ここも空いた入院ベッドはほとんどないはずであるが、それでも救急の医療関係者の対応ひとつで患者の納得度は異なる。少なくともオレより手術のできる病院についての情報は多く持っているだろう、という思惑がはずれただけで、医者への敬意の情や使命感についてのこちらの期待がずっこけただけの話であった。

いずれも「虫垂炎疑い」という小生の診断がちがっていたのであるが、そのために外科に紹介しているのではないか。2010.02.28.

この話はこれで一応終わりにして発表する気であった。たまたまご夫婦で来られた患者さんに「こういう話があるで・・・」と言ったところ、「あそこはダメですわ!」と穏やかなご夫妻だったのだが、激しい憤りとともに自らの経験を話してくださった。それによると、・・・ある日、奥様のほうが夜中に急激な腹痛を訴えてご主人が慌てて自分で運転をして、ここに言うA病院の救急外来を訪れたところ、少なくとも2時間以上待たされた挙句、診察もしてくれず、やむなく帰宅したという。原因不明どころか、明らかな**診療拒否**である。しかも急性腹症でうずくまったままの患者に対して医者も看護婦も何も尋ねなかったのか? まあ、**余計なことをされずに何も**なく帰宅できただけよしとしなければいけないか。

まだある。別のときには、ご夫妻のおばあさんが肩の骨折で受診したら、「入院はできない。家で看病してください。」という。「家で具体的にどうすればいいのですか?」と尋ねると「そんなもん、じっとしているだけでいい」と答えたらしい。やむなく、B病院に連れて行ったところ、大したことはないらしく入院はともかく、その時点でできることをしてくれたあと、詳細に自宅での処置を教えてくれて、「全然対応が違うなあ」と2人で話しながら帰宅したとのことであった。・・・A病院についてこれはもう「**医療崩壊**」とでもいうもので、今「痛い」という人に対して、医療関係者が何もせず反応すらしなかったのである。路傍の石を見るがごとく、一顧だにしなかった、と聞いてあきれるのはワタシだけではないだろう。・・・仮に緊急の手術があったとしても、全員がそちらに手をとられていたわけではないだろう。夜勤で疲れているだろうが、たった一言、通りがかりにでも「どうしたの?」「大丈夫?」と尋ねるだけの親切心を医者も看護婦も持ち合わせていなかったことに、**戦慄を覚える**。**倫理観の欠如**という表現でいいのだろうか

今、あちこちの病院で看護婦が「抵抗できない」患者に対して暴行やら不要というより禁忌の投薬やらの記事が次々にでてきている。ほんまにこの国の医療は大丈夫なんやろか。 2010.03.17.